

氏名【三浦 章宏 委員（会長）】

協議事項意見書

テーマ

図書館が支援できる創造的活動と
は

【意見記入欄】

A I ・ I C T によって図書館は3つの方向性（活動）も考えていく必要もある。

1. 建物を必要としない、ネット社会の情報提供

- (1) 電子書籍，郷土資料のデジタル発信，検索と物流による在宅利用，学校での活用

2. 建物を中心とした仲間（地域）交流（情報共有）

- (1) S N S で情報交換し，交流のために会議室（図書館）に集まる読書会，学習会，料理教室（そばうち等々）
(2) 高齢者，子ども，主婦等の交流の場，講演会，おはなし会，病気等の情報交換の場

3. 個人の「いきぬき」と「にげ場」

- (1) ひきこもり，不登校，独居者等々，コンピュータやスマホでは満足できない住民が，ネット上で図書館を知ることにより来館する。

氏名【松清 智洋 委員（副会長）】

協議事項意見書

テーマ

図書館が支援できる創造的活動と
は

【意見記入欄】

4つのP（project,passion,play,peers）

Project(プロジェクト)→・個別最適化

Passion(情熱)/play(遊び)/peers(仲間)

↓

- ・子どもに限らず市民の個々のニーズ（＝課題提起，問題解決のプロセス）に対して，図書館がどう寄り添えるか。（←司書の役割）
- ・1対1の人間関係ではなく，図書館という施設全体が，市民ひとりひとりを支援する意識
- ・発見する楽しさ，達成する喜び，学びの楽しさを共感できる場づくり

氏名【笹間 ひろみ 委員】

協議事項意見書

テーマ

図書館が支援できる創造的活動と
は

【意見記入欄】

宮島委員の発表の中にあつた創造的な学びのための4つの要素（project, passion, play, peers）が印象的でした。

学校の授業が本質的に変わらないというお話でしたが、来年度から本格実施となる新学習指導要領のテーマである「主体的・対話的で深い学び」と重なる部分があり、学校現場は子どもたちが目的意識を持って興味深く楽しく学び、仲間と共に学ぶことで、知識を広げ深めていくように授業改善に取り組んでいます。

学校教育と社会教育のちがいは、社会教育では子どもが好きなこと・興味のあることに、とことん取り組めるところであると思います。

図書館はそんな願いをかなえる地域の核であってほしいと思います。

新しい知識と人との関わりを求める市民に応じられるような場であってほしいと願います。柏市内には魅力的な人材がたくさんいらっしゃると思うので、その方たちの専門的知識と本とをつなぐ機会をつくっていただけたらと思います。

イベントはもちろん、分館の機能充実に期待します。同時に、この協議会に参加し、図書館を応援する人がたくさんいることを感じています。ボランティアを募ったり、企業と連携することもひとつの手段であると思います。

私も少しでもお力になればと思っています。

一年間参加させていただき、図書館が変わろうとする意欲を感じました。ありがとうございました。

氏名【大野 都 委員】

協議事項意見書

テーマ

図書館が支援できる創造的活動と
は

【意見記入欄】

『主体的・対話的で深い学び』に教育が変化する中で、すでに学校教育の中でも、作る（情報を集める）⇒遊ぶ（資料作成）⇒共有（発表する）⇒振り返り（話し合う）という形で探究活動が行われている。その中で、子どもたちが見つける学びの種は多種多様であり、そこが学びの原点となってきた。

子どもたちの学びの種を広げる多種多様な学びの場を提供することができるのが、市立図書館ではないだろうか？

多様性のあるコミュニティーを作り、生涯学習としての学び続ける場を作り、<学ぶ人>から<メンター>へ育っていく、そんな場所作りを考えてもらいたい。

「学びたいという思いが学びにつながる」この思いを大切にしたい。教育委員会で行っている「調べる学習コンクール」を学びの種探しに役立てたい。

追記

市立図書館は創造的な活動を構築していくことも大切ですが、公立図書館の本来の使命、図書館としての機能の充実をはかっていただきたいと思っています。

氏名【羽村 太雅 委員】

協議事項意見書

テーマ

図書館が支援できる創造的活動と
は

【意見記入欄】

創造性を促す4つの要素（4つのP）

【Project】

- ・世にある面白い Project の紹介
- ・歴史の中でどんなユニークな Project があったのかをレビュー
Project が紹介された本の特集（先人から学ぶ）

【Passion】

- ・情熱的な人を見る，話を聞く，関わる機会の創出
- Ex.・講演会的イベント（柏100人カイギ等。コラボ？図書館版の類似イベント？）。
- ・情熱大陸的映像での紹介→動画作成時の編集方針が必要
 - ・「アツい人図鑑」とでも言うべき冊子など（伝記集？）

【Play】

- ・図書館との関わりが薄い層が「参加したい」と思えるエッジの聞いたユニークな遊び心あふれるプロジェクトに！！
- ・低関与層への情報発信と，彼ら彼女らに響く発信方法を！
Youtube,TikTok,Instagram 等
単なる Facebook や Web ページ（ホームページ）のような一方
通行的な情報発信だけでなく，双方向的になるように。

【Peer】（仲間）

- ・仲間作り，ネットワーキング，イベント？テーマ別のマッチングデータベース？おみあいの紹介システム？
- ・メンター集め

氏名【宮島 衣瑛 委員】

協議事項意見書

テーマ

図書館が支援できる創造的活動と
は

【意見記入欄】

ハードウェアの観点から

- ・ コンピュータを使った創作活動を認める場を確保する
- ・ 材料や機材の提供（ないしは販売）
- ・ 電源と Wi-Fi ！！

ソフトウェアの観点から

- ・ Creative Learning Spiral に沿った仕組みデザイン
（特に，share(共有)と reflect（振り返り）

氏名【窪田 友子 委員】

協議事項意見書

テーマ

図書館が支援できる創造的活動と
は

【意見記入欄】

公共の場で異年齢、知識や経験の違う雑多な人が混ざり、作って遊んで仲間と共有し、また再挑戦するスパイラル構造が、創造的な学びになっていくと実感した。

アイデアが行ったり来たりすることで、子どもたちの考えがまとまることにつながると思う。

仲間との交流や気づき、背中を押してくれる支援の場、きっかけ作りの場、多様な経験と異年齢の集まる開放的なメンター拠点で、調べる、探す、話す、聴くという事を重ねる場所、共に感動する環境づくりを図書館に期待したい。

創造的なこととは、目に見えるアウトプットがなくても、今までの自分とは違った自分に出会うことと大きくとらえても良いのではとも思う。

追記) コロナ対策により集うことができない図書館を痛感している。しかし、図書館のIT環境充実につながる機会だとも思う。

氏名【増山 暁美 委員】

協議事項意見書

テーマ

図書館が支援できる創造的活動と
は

【意見記入欄】

情報提供の講義内容は、子どもの創造的（性）を伸ばすものでした。

現在は、子どもを重視している社会ではあると思いますが、図書館は子どもの他に様々な年代の人が関わりがあるはずです。

ある程度年齢のいった高齢者と言われる人たちを対象とした、創造的活動がないだろうかと考えます。例えば、近現代資料の収集・保存・活用の推進事業に、高齢者パワーを利用したらいかかかと考えます。

氏名【菅原 京子 委員】

協議事項意見書

テーマ

図書館が支援できる創造的活動と
は

【意見記入欄】

グローバル社会にあって、創造的な学びは大変重要です。小学生からコンピュータを使い、ゲームなど遊び感覚で使えるようになる事で、最初は小さな一歩でも、社会に出る頃には、自由に創造的に人生を切り開いていけると思います。

日本の企業も、そうした若者の人材育成を必要とし、力を入れています。

これからの社会に、世界に活躍するうえで学校現場で教員だけにとどまる事なく地域企業の力を借り、コンピュータ創造の学びをするべきだと思います。

幼稚園・保育園の子供が、何の説明もせずスマートフォンなど操作している時代、子供はおもちゃ感覚・遊び感覚で、学ぶという意識がありません。

図書館においても、空き場所を利用して、学ぶ場所やコーナーを設置して下さると良いと思います。

子供の想像力は大人が思っているよりはるかに進んでいると思います。貧困の家庭の子供たちにも、そのような機会をつくってあげてほしいです。

図書館ならできると思います。

みんなに、すべての子供たちに等しいチャンスをも！

氏名【丹間 康仁 委員】

協議事項意見書

テーマ

図書館が支援できる創造的活動と
は

【意見記入欄】

- ・ 図書館においても個人に最適化したサービスが求められるようになると思うが、その際に、「個とは何か」が問われる。それは、他者から閉ざされた個ではなく、他者や環境との相互作用のなかで存在する個であると思う。だからこそ対話が重視される。
- ・ この前提に立ったとき、図書館においては、（ミッチェル・）レズニック（事務局注：米 MIT（マサチューセッツ工科大学）メディアラボ教授。子供向けプログラミング言語学習環境「scratch」の開発者で、創造的な学びの提唱者）の論じた創造的学びのスパイラルのうち、「play」「share」「reflect」のプロセスが特に重要になってくると考える。図書館というと真面目に個人で利用するイメージだが、その概念を打ち壊し、遊び心を持って仲間（peers）としての他の市民・利用者と、時間や空間を共有しながら利用する（過ごす）場になればと思う。それには、様々な事業ももちろん、図書館員が、メンターとしての資質を持つ必要があって、そのための研修を図書館ではない機関との連携（児童館・プレイパークなど）に基づいて実施することも有効であろう。
- ・ 今回の協議テーマは創造的活動に対する図書館の支援ということであるが、図書館自体を創造的な場にしていく。まち自体が創造都市となって、まちの創造的拠点としての図書館を目指したい。

- ・ 小さなプロジェクトを市民や子どもに対してたくさん投げかけていく。図書館がさまざまな課題提起をしていくことが重要である。

氏名【田中 礼二郎 委員】

協議事項意見書

テーマ

図書館が支援できる創造的活動と
は

【意見記入欄】

子どもや教育の過程にある人たちには、それ相応の施設もあると思います。ですので、図書館は学校を卒業した人や、学業から離れている人に、知ることの楽しさを伝えられる場であるとよいと思います。

特に学業を終えると、勉強や学ぶことはおしまいと考える人が多い風潮にあると思いますので、そうではなく、誰でも学びたい時に学ぶことが恥ずかしくない、当然のことだと周知させられるのが望ましいと思います。その拠点に図書館になるといいと思います。